

佳作 「給食を減らすと」

安城中部小学校 峯村 麻葵

給食についての私の考えを書きます。私は、給食をたくさん減らしている人がいるので、その人たちは給食に感謝して食べていないのではないだろうかと思います。給食を残さず食べて、残菜をなくすべきだということが私の意見です。

第一の理由は、牛肉やぶた肉にするために、牛やぶたが命をくれているということに気づいていないからだと思います。牛やぶたはまだ生きていられるし、まだ生きていたいけど、私たちが生きていくために殺されました。給食を残してしまつたら、その意味がなくなつてしまふと思います。

第二の理由は、栄養士さんが私たちのためにバランスよくメニューを考えてくれたり、作ってくれたりしていることです。栄養士さんが私たちのために考えてくださったのに、それを残してしまうことはとても失礼なことです。もし、私が一生けんめいメニューを考えたのに残されてしまったら、とても悲しいです。給食は無理して食べなくていいけど、なるべくそれらのことを考えて残さず食べて、残菜をなくしたいと思います。昔の給食は今より量が少なく、デザートなどがあまりでなかったそうです。今の給食は量も多く、バランスもよくとれておいしいので私たちは幸せだと思います。昔の

給食の話をしてくれた黒田さんが、

「昔は、今の給食の三分の一しか給食がなくて、少なかつた。」

と言っていました。昔の給食は少なかつたからおなかいっぱいにならなくて、今の給食は多いからおなかいっぱいになるので、昔はおなかやすいからもう少し食べたかつたと思います。なのに、きらいだからと言って減らすと、昔の人はその残菜を見て、「もつたいない」と思つてしまふと思います。今の給食はバランスもよく、おいしく量も多いので、残さず食べておなかいっぱいになることを感謝して幸せだと思つて食べたいです。黒田さんは、

「好きな給食は、くじらのたつたあげだつた。」

と言っていました。子供のころの好きだつた食べ物を大人になつても覚えてられるということは、給食がそれほど好きで、楽しみだつたと思います。給食は一つの楽しみな時間だといえます。今はあたり前のように何も考えずに給食を食べているけど、好きな食べ物は大人数になつても味が残るので給食は大人になつてもわすれられない物だと思います。給食を残さず食べたいと思います。